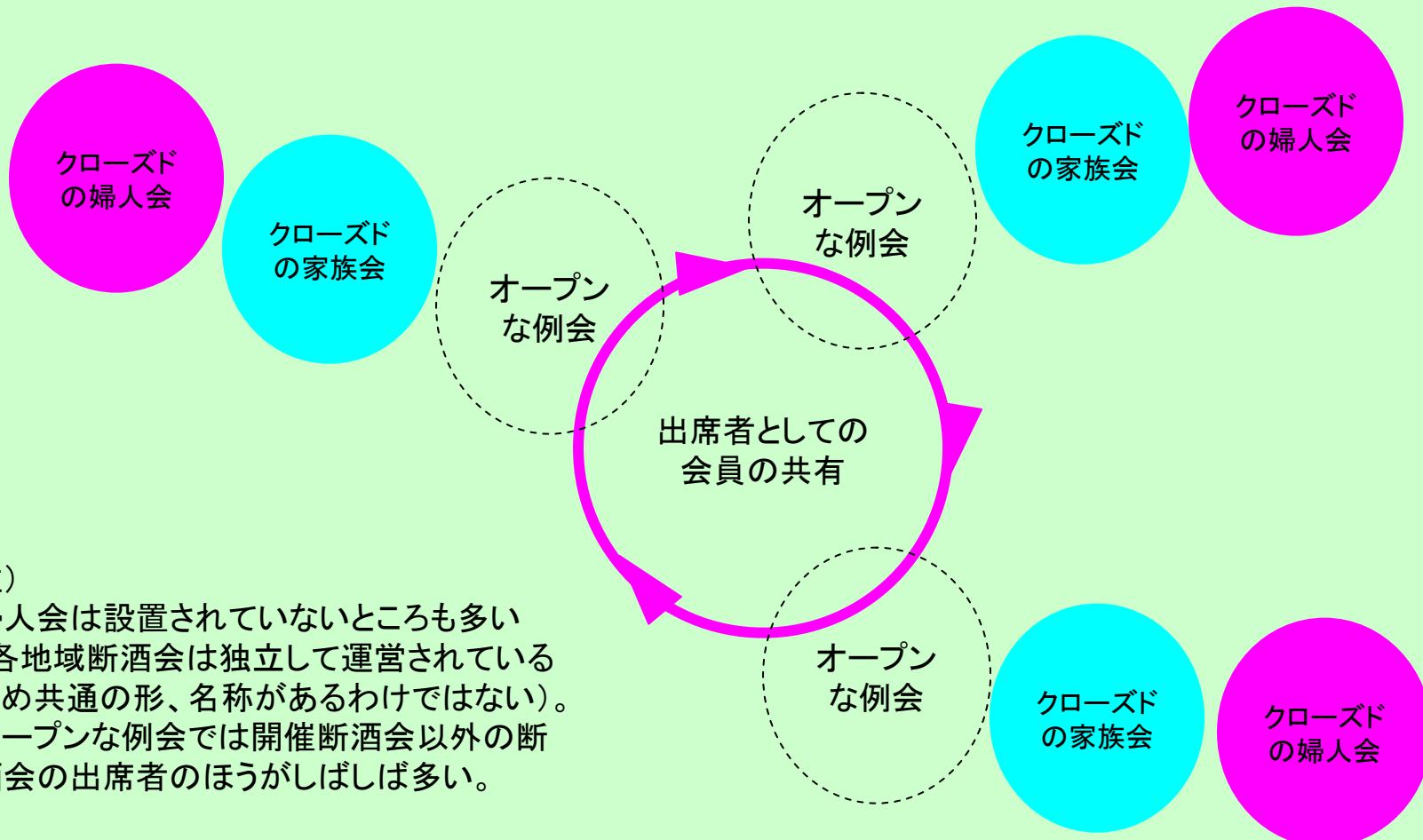


P3 断酒会の組織構造と治療原理(1)

岡 知史(社会福祉学科)

断酒会の組織構造は非常に複雑である。その特徴は以下の2点にまとめることができる。

- 1) オープンな集会とクローズドの集会があるが、そこでは断酒会会員であるかどうかが区別の基準なのではなく、(A)その地域断酒会の会員であるか、(B)女性家族であるかどうかが区別の基準になる。その区別の組み合わせによって3つの集会がある。
- 2) 地域断酒会は他の地域断酒会と、会員を出席者として共有しており、その意味で断酒会単位で相互扶助の関係が成立している。



断酒会の治療原理は、従来の(自助グループ内の)集団療法の原理として考えられてきたものと大きく異なっているのかもしれない。以下に対比して示す。

断酒会(特に大人数の例会)	従来の(自助グループ内の)集団療法
<ul style="list-style-type: none">□ 他者への配慮を求める。他者の期待を察知して発言の長さ、内容を考える。□ 全員が必ず話すという原則があるため、互いに時間を分け合う配慮が求められる。□ 発言は一人1回が原則である。□ 発言者は司会者が指名する。(通常、会長などランクの高い会員は最後に発言するが、それ以外は司会者の裁量の範囲。)□ 司会者は発言者を指名するということだけで集会の成否を左右すると考えられている。また指名以外のことには積極的ではなく、禁欲的な印象さえある。□ テーマは事前に設定されていない。	<ul style="list-style-type: none">□ 自己探求が目的の発言になる。いかに自己を掘り下げ、語るかが重要になる。□ 話す、話さないは個人の自由にまかせられている。□ 発言回数は定められていない。□ 誰が発言しても自由である。会長が最後に発言するということもない。□ 司会者は沈黙が続いた時に発言を促すくらいで、それほど大きな役割があるわけではない。冗談を言ったり、ムードメーカーの側面があるかもしれない。□ テーマが事前に設定されていることが多い。